

平成 28 年度 第 4 回 沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨

日 時：平成 29 年 2 月 23 日（木）14：00～16：00

場 所：琉球大学医学部附属病院 3 階がんセンター

出席者：7 名 樋口美智子（那覇市立病院）、島袋幸代（沖縄県立中部病院）、
仲宗根るみ（北部地区医師会病院）、佐渡山英子（県立宮古病院）、
平良芳子（沖縄県立八重山病院）、増田昌人、大久保礼子（琉球大学医学部附属病院）

欠席者：0 名

陪席者：1 名 井上亜紀（琉球大学医学部附属病院）

【報告事項】

1. 平成 28 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨（資料 1）

協議に先立ち、資料 1 に基づき、樋口副部長より報告があり、平成 28 年度第 3 回沖縄県がん診療連携協議会相談支援部会議事要旨が承認された。

2. がん患者ゆんたく会について（8～12 月）

資料 2-1, 2-2, 2-3 に基づき、樋口副部長より、10～12 月に各拠点病院にて開催された「沖縄県がん患者ゆんたく会」について報告があった。琉大病院では、1 月から運営方法が変わり、2 時間の内、1 時間を講演など勉強ができるようにし、その後の 1 時間をフリートークとしたところ、テーマがあるせいか、参加人数が増えた。その反面、もっと話をしたい方もおられたので、時間配分が難しいとの報告があった。中部病院では、12 月のクリスマスの時に患者会でコーラスをしたとの報告があった。那覇市立病院では、前半 30 分をミニレクチャー、その後でフリートークとしているが、年に 2 回くらいは前後半全てフリートークとする会を設けており、元院長の与儀先生が参加下さり医師の意見も聞けて好評であるとの報告があった。

3. がん相談件数について（8～12 月）

資料 3-1, 3-2, 3-3, 3-4, 3-5 に基づき、各拠点病院のがん相談件数（8～12 月）について報告があり、琉大病院、那覇市立病院では、社労士相談の件数が伸びない現状があるとの報告があった。

4. 各部会事業の進捗報告について

(1) 【施策 1 関連】地域の療養情報 2017 版の進捗について

資料 4 に基づき、事務方より、離島やへき地のがん医療について「療養場所ガイド」の紹介、グリーンケアの「東本願寺沖縄別院」を「グリーンケアの会～」に変更、志村大輔基金・こうのとりマーリン基金・佐藤きち子基金等の制度に関する情報をまとめて第 3 章（お金のこと）に記載、ハローワーク那覇の就労支援に関する相談窓口（就労ナビ）の追加、外見ケアについて、冊子などの情報を紹介、等の内容の改編を行ったとの報告があった。

表紙・扉（P1）・奥付（P104）に「平成 28 年度 沖縄県委託事業」の明記、県内の医療体制について北部地区医師会病院を地域がん診療病院に修正、がん治療の基礎知識に関するコラムや体験談を見直した。福祉保健所一覧を福祉事務所一覧に変更し、生活保護の問合せ先を町村にお住まいの方は福祉事務所、市にお住まいの方は市役所へ問合せするように明記した。冊子の巻末に、医療者へ質問したい項目や医療者

から得た情報（説明を受けた内容）が書き込めるメモページ、面談の時に使える質問集をまとめて掲載し、活用しやすいように工夫した。

事務方より2月末には予定通り校了して、3月中旬には沖縄県庁と本島内3拠点病院に届く予定なので、順次配布をお願いしたいとの周知があった。配布については、発行部数は前年度と同様の2万部であるが、平成28年度は県の在庫がなく追加でほしい病院の分が無くなってしまったので、2017年版は問合せのあった病院に必要な冊数を調べ取りまとめて、県の方へ配布案を送付することで了承された。

(2) 【施策2】 がん相談支援センターの広報について

資料5に基づき、大久保委員より、8月のがん相談支援センターのチラシ作成及び配布、普及啓発部会との連携で9/29にがん検診の特別番組(チャットステーションL)への出演、10/12の国立がんセンターの主催のセミナーへの参加、11/13～11/14リレーフォーライフ浦添へのブース出展の報告があった。

月1回、第一木曜日に新聞無料広告欄への投稿(週刊ホームプラザ、週刊レキオ)を行っているが、4月～2月までの11か月間(22回投稿)で、8回の掲載との報告があった。セミナー等への参加者を増やすには、保険会社などの企業の力を借りることも必要だとの協議があった。

(3) 【施策3】 患者サロン間の情報交換会・【施策4】 就労支援関係者との意見交換会について

資料6に基づき、大久保委員より、3/4(土)に第3回がんサロンネットワークを開催するとの報告があった。患者サロンの運営に携わっている方に集まっていたでの活動報告と、ハローワークの長期療養の方の就労支援を担う「就職支援ナビゲーター」の講話をいただく予定である。沖縄県がん患者連合会、ぴんく・ぱんさあ、宇宙船子宮号、ぴあナースには参加の内諾を得ており、拠点病院の患者サロンの運営をしている方のご参加をお願いしたいとの周知があった。

(4) 【施策5】 相談センター満足度調査・【施策6】 相談支援センター・チェックリストについて

(5) 【施策7】 2/11 地域相談支援フォーラム in 沖縄について

資料7に基づき、大久保委員より、一般参加78名、鹿児島のがん患者会より代表者2名、行政担当者6名、相談部門長5名、国立がんセンター4名の参加者としては95名、講師は4名、実行委員が31名だったので、合計130名での会の運営となり、閉会式のコメントが増えるなど、プログラムに変更があったが、時間内に終了できたとの報告があった。アンケートによると、他県の取り組みを知る事が出来てよかった、もっと質問の時間がほしかったという意見や、指定発言だけでなくフロア内からの意見も取り上げてほしかったという意見があった。グループワークで意見交換が出来たこと、新しい意見が聞けて持ち帰って勉強できると好評であった。樋口副部長より、国立がんセンターの高山先生から、テーマを絞って事前課題からグループワークで意見交換しそれを持ち帰って各自が院内のPDCAサイクルに繋がっていけるのがよかったとのコメントを頂いたとの報告があった。反省点としては、会場の狭さ、昼食時間のあわただしさ、飲水ができないことが辛かったとの声が上がっていた。仲宗根委員より、マニュアルやタイムスケジュールがあったことで、実行委員も一人一人が役割を把握できスムーズに動けたのではないかと、佐渡山委員より、当日のリーダーの指示がよく、みんながスムーズに動くことが出来た、との意見があった。樋口副部長より、接待に関しては、役割と控室の煩雑さなどの環境が気にな

ったとの意見もあった。大久保委員より、拠点病院以外とも共通のテーマを持ちつながりも出来て県内
がまとまりを持ついいきっかけになったが、フォーラムの意義や1年間フォーラム準備に費やされてしま
うことが、持ち回り開催で大きな負担にならないか、県外の当日実行委員も運営に慣れていないし、
予算的にも縮小するのであれば実行委員ではなく各県一般参加の中から発表者を出していただく等、次
回の大分開催で検討いただくとよいのではないかと意見があった。また、次回以降、行政や部門長の
ワーキングも相談員グループワークと別立てのプログラムを組みなどしてもよいのではないかと意見
があり、協議がなされた。

(6) 【施策8】12/8 都道府県第7回情報提供・相談支援部会について

資料8-6 ページに基づき、大久保委員より、「がん相談支援センターの役割に関するアンケート」の
概要報告について、相談支援センターでできる事出来ない事を親会に報告し、相談支援センターの予算
確保や体制整備が課題として挙げられたとの報告があった。資料8-10 ページに基づき、大久保委員より、
「研究班によるパイロット調査における相談件数カウント調査」について、自施設の見える化と他施設
との比較ができるとして、相談記録のための基本形式を策定しがん情報サービスで公開済みであり、入
力のためのシステムとマニュアルをも公開されているとの報告があった。相談件数の報告については、
宮古病院・八重山病院にも、次年度から参加してほしいとの要望が出され、今後は、拠点6病院の足並
みが揃ってから、がん専門病院などへ周知していくことが了承された。

(7) 【施策9】セカンドオピニオンリストの公開について

資料9に基づき、増田部会長より、協議会ホームページに公開されたことが周知された。

(8) 地域統括支援センターの報告について

資料10-1に基づき、増田部会長より、「がんピアサポーター養成講座」が、9/10、10/1、10/29の3日
間12時間の研修が行われ、受講生16名の内、修了者は14名であり、今後は、14名の終了者の活躍の場
が必要であるとの報告があった。また、資料10-2に基づき、増田部会長より、「がんピアサポーター交
流会」が12/10に開催され5名のピアサポーターと相談員の9名の参加があったが、活躍の場の確保が
難しいとの報告があった。拠点病院の患者サロンを「養成講座」の3日目コース、あるいはロールプレ
イが終わった後の4日目に取り入れ、拠点病院の患者サロンに1回は参加してもらうことを養成講座の
必修科目としてどうかとの意見があった。

6. その他

【協議事項】

1. 平成28年度の部会事業の評価について・・・(資料11)

資料11に基づき、【施策1】2016年版の療養情報の配布と評価、発行するならば2017年版を発行、【施
策2】相談支援センターの周知広報活動、【施策3】ピアサポーターやがん患者との連携協力体制の構築、
【施策4】就労支援に関する事例に関して、研修会や意見交換会を通じた就労支援関係者との連携、【施
策6】県内のがん相談支援センターのチェックリストの作成、【施策7】がん相談員を対象とした研修会

の企画・開催（九州沖縄ブロック・フォーラム）、【施策 8】相談支援部会活動に関する学会等の報告、【施策 9】県内のがん診療を行っている病院のセカンドオピニオンリストの作成、の 8 つの施策は、完了もしくは 3 月中に完了予定のため、10 点とすることが協議の上了承された。

【施策 5】患者満足度調査を実施し、分析結果の公開と相談支援への活用、については、PDCA サイクルも含め、引き続き次年度も協議するので、5 点となった。

【施策 8】の部会活動に関する学会等の報告について、相談件数を各病院で①電子カルテ②相談シート③報告用として、国がんのエクセルシートに転記し、琉大・那覇市立・中部・北部地区の 4 病院で、報告用に「統一版エクセル」にまとめ、部会報告や学会発表に繋げることが協議の上、決定した。

2. 平成 29 年度の部会事業の行動計画について・・・（資料 12）

資料 12 に基づき、大久保委員より、【施策 5】患者満足度調査と相談支援への活用を PDCA サイクルの評価に活かすこと、【施策 6】がん相談支援センターのチェックリストの作成、をどう動かすかを検討したいとの意見があった。樋口副部長より、【施策 5】に【施策 2】相談支援センターの広報活動、を絡ませて、定点調査、地域を限定しての調査など、継続的に満足度調査をしていくとか、検診の案内に盛り込むとか、行政にも働きかけが必要との意見があった。増田部長より、年 1～2 回ある県医師会＋沖縄タイムス＋琉球新報主催のフォーラムは参加 300 名程度なので、バイアスがかかるかもしれないが調査に使ってはどうかとの意見があり、次年度では【施策 5】のフィールドをどこにするかなど、時間をかけて検討していくことが了承された。

増田部長より、【施策 1】2017 年版の療養情報の配布と評価、2018 年版の発行、【施策 2】相談支援センターの周知広報活動、【施策 3】患者サロン間の情報交換会の開催、【施策 4】就労支援に関する社労士や就労ナビ、両立支援促進員等との意見交換会、【施策 7】がん相談実務者研修会の年 3 回の実施、【施策 8】部会活動の学会報告や都道府県情報提供・相談支援部会への参加、【施策 9】セカンドオピニオンリストの作成公開、を次年度も企画していくとの報告があった。

3. 平成 29 年度の部会事業の予算について

資料 13 に基づき、増田部長より、各病院での予算を確認して計上確保しておいて頂きたいとの依頼があった。

4. その他

(1) 平成 29 年度の部会長、副部長について

平成 29 年度の部会長は、中部病院の島袋幸代さん、副部長は、北部地区医師会病院の仲宗根るみさん、琉大病院の増田がんセンター長とすることが協議の上、了承された。

(2) 次回、平成 29 年度第 1 回相談支援部会開催日は、第 1 候補日の 4 月 20 日（木）で、仮決定とすることになった。

開催予定日（仮）： 平成 29 年 4 月 20 日（木）